

七日行われ、幾寅獅子舞が奉納され市内には出店もでて、賑やかに多彩な行事が繰り広げられる。

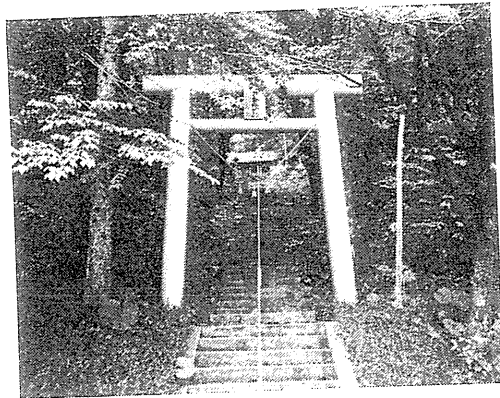
下金山神社 当神社は、開拓当時の三神社(祠)が、一カ所に合祀されたもので、『村史』には、次のように当時の状況を掲記している。

(略) 先ず明治四十二年に清水権兵衛が農場事務所に「守護神社」というのを建設した。農場を守護する意味で「守護」と称したのはもちろんであるが、神体は角柱を大地の上にたてたもので、天照大神か地神かと思うのである。拝殿もあって毎年八月十二日には農場の小作人が集って祭をした。これがその第一である。

鶴谷農場には大正二年以来神天皇をまつた神社があつて、十月十二日に祭典を催していた。下金山の草創の時代の二大農場はそれぞれ神社をもっていたわけである。これが第二である。

大正三年以来、御料地には明治天皇をまつた神社があつて七月三十日に祭典を催していた。これが第三である。

前述の清水、鶴谷両農場と御料地に所在する三社(祠)を合祀しようという世論が高まり、清水権兵衛を始め引田徳市、間崎慶弥ら



下金山神社

が、市街地と農家に呼びかけ、造営したのが現在の神社である。遷宮については、各神社の氏子総代が集まり協議の結果、大正四年(一九一五)と決定した。

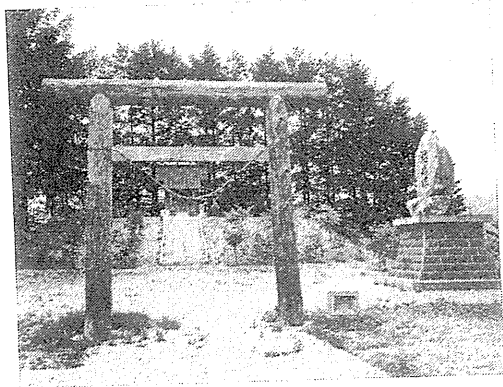
神社用地は、引田徳市(二反歩・境内林地)と清水権兵衛(二反歩・入口道路、祭場)の寄付によつたのである。

創建以来の神職は、山部村の大場宮司が伺候し、次いで東山村の西条宮司であり、その後は市街地の堀本徳松が担当した。氏子総代として尽力したのは、引田徳市、間崎慶弥、北条滝蔵、及川藤市等であつた。祭典は毎年九月一二日に行われている。

東鹿越大山祇神社 この神社は、東鹿越鉦山を経営した王子製紙株式会社が、当初、鉦山の平安と隆盛を願って建立したもので、同社の請負業者であつた中村組が、昭和九年九月一五日に社殿を建立した。

祭神は愛媛県大三島、大山祇神(大山祇神社)である。同一年二月、王子製紙株式会社が日鉄鉦業株式

会社へ当鉦山の権利が譲渡された際、神社、招魂碑などもともに日鉄鉦業へ移つ



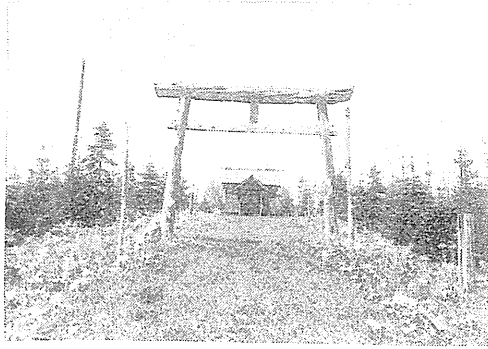
東鹿越大山祇神社

た。

同二八年の台風に社殿が被害を受けたが、すぐに再建され、鳥居もそのころ建立され、現在に至るまで、当鉾山を中心に東鹿越集落の守護神として祭祀が行われている。

なお、同所には昭和十二年一〇月建立の戦没者、殉職者の招魂碑がある。

北落合神社 当神社は昭和十一年九月一二日、当時の川合農場主川合倉吉が、集落（旧落合第八出張区・親睦農事実行組合）の守護神として創祀したもので、祭神は正一位稲荷大神であり、当神社には、地神（天照皇太神、大己貴大神、稻倉魂大神、少彦名神、大国魂神の五神）が合祀されていた。



北落合神社

昭和十一年四月二六日、坂井久男、坂井定男、小野寺彦次郎、三ヶ田源次郎の四戸が、尺余の積雪の道二里を、妻子らと鍋釜など家財道具を背おって踏破し入地した。この入地到着の日（四月二六日）を当神社の春祭の日とした。翌一二年に民沢善太郎、今川マスノが入地、一三年には

広瀬コヨが入地した。戦後、北落合地区の開発が脚光を浴び入植者による集落の形成がみられたが、昭和二八年の北落合総合開発起工式当時は、この集落には、坂井久男、坂井定雄、小野寺彦次郎、三ヶ田源次郎の四戸が残るのみであった。北落合神社創建時には、地神は別に祭祀されていたが、年々この祭典に奉仕した東関芳が合祀した経緯がある。当神社を現在地に移祀したのは昭和三三年であり、祭神は稲荷大神で、毎年九月一二日に祭典が行われている。現在の氏子信者の代表は、北落合連合会々長菊池富夫であり、祭典の執行には北落合連合会が当たっている。